

<略歴>

中学卒業後デザイン科のある「西野田工業高等学校」へ入学。当時、今のようにパソコンを使っている編集が一般的ではない中、学校内にビデオテープを使ったノンリニア映像編集機があり、それを使用して短いドラマやアニメーションを作り始めたのが映画、映像制作の始まりです。高校卒業後はロサンゼルスに映画を学ぶ為に留学。午前中は英語、午後は映画の勉強というカリキュラムで生活を続けましたが、ホームシックになり帰国。翌年に大阪にある「放送芸術学院」に入学し、パソコンによる映像編集を学びました。

卒業後は上京し、深夜のニュース映像編集の仕事や、BSテレビ局での編集の仕事をしながら、自主制作の映画作りを続けました。初めての長編映画「カケラ」が埼玉で行われているSKIPシティ国際Dシネマ映画祭にセレクトされ、その後モナコ国際映画祭でも上映され、ヒューマニタリアンアワードを受賞しました。



兵庫県伊丹市出身の歌手：BOROさん（大阪で生まれた女）とモナコ国際映画祭で

その後も自分なりの映画を作るべく試行錯誤をし続けており、現在4本の中長編映画を作りました。そして、今後さらに映画作りに注力する為、映像編集の仕事をセーブし、多くの時間を映画作りに傾けています。現在は初めての連続ドラマの制作に挑戦中です。

「師事した芸術家：クリストファー ネメス」について



クリストファー ネメスは英国出身のファッションデザイナーで80年代後半から東京を拠点にした服作りをはじめました。僕がネメス氏の服と出会ったのは高校生の時で、今までに感じた事のない感覚を服から感じました。そして、留学に失敗して帰国した直後にネメス氏本人に初めて会う事が出来ました。ネメス氏と対面した時、芸術家というのはこういう人の事かと、10代の僕は思いました、そして、自身の服作りについて、表現について、いろいろと語ってくれました。ネメス氏は元々絵を描いていたけども、絵はほとんど売れず生活が出来ないので、自分が着るための服を作り始めたのがファッションに関わる始まりのようです。その根底にはパンクの姿勢があり、DIYの精神がありました。DIYは自分で行動を起こす事で、何だって出来るという考えで、ネメス氏は自分でショップの壁紙を貼り、木を切って棚を作り、家具から内装まですべて一人の力で

自身のショップを手作りで仕上げていました。ファッションの勉強をした事がなかったネメス氏が独学で服を作り、お店自体も作ってしまう、そんなネメス氏に対面出来たからこそ、僕は自分でも、自分の手で映画が作れるんじゃないかと思う事が出来ました。僕は映画を作っているのに、ファッションデザイナーであるネメス氏とは直接関係がないと思われるかもしれませんが、僕も、僕は確実にネメス氏に影響を受け、今も受け続けています。表現に向かう者にとってはジャンルは関係ない



のではないかと思います。姿勢や思想はジャンルを超えて影響を受けるものだと思います。僕はネメス氏に出会っていたなかったら映画作りを続けてこれなかったと本気で思っています。そして、いつもくじけそうになった時、行動を起こす勇気が出ない時、ネメス氏の事を思います。自ら行動を起こせば誰にでも、どんな事でも出来るはずさという彼の思想は、僕にいつも勇気を与えてくれます。

「真のクリエイティブっていうのは、

純粹で正直な告白にすごく近いと思う」

クリストファー ネメス

長編1 作目「カケラ」



長編2 作目「僕たちのマーチ」



中編作品「優しい初夏の日」



長編3作目「あなたとの距離について」

あなたとの距離について



みんな寂しい気持ちって
どうやって解決してるんだろう



新作連続ドラマ「portrait(s)」



セクシャルマイノリティー（LGBT）の多様な人が登場する
日常生活を大切にした連続ドラマです。

<https://www.youtube.com/user/industfilm>